

## 講演抄録

### 激動の世界と日本の課題

慶應義塾大学名誉教授

島田晴雄

#### 戦後 70 年の柱

本日お話ししたい内容は多岐にわたり、用意してきた原稿は 36 ページにもなりました。その中でエッセンスをかいつまんで、できるだけ分かりやすくお話ししたいと思います。

まず、みなさんと一緒に考えたいのは、企業が経営できるためには、そもそも、ある程度、経営の環境が整っている必要があるということです。経営は常に投資しなければいけません。投資をするには、先を読まなければなりません。そのために、安定的に先が読める状況にあることが大切です。そこで、何よりもまず、平和でなければなりません。平和と、安定して先が読める予測可能性という前提があったからこそ、日本も、世界の企業も経営ができたのです。戦争が起きると仕事ができません。ひとたび戦争が起きれば、当然先行きは不安定で、先が読めなくなるととても困ります。人類は 1945 年に第二次世界大戦をなんとか終えて、戦後の世界を作ってきました。世界各国は、お互いに安全保障をしっかりとやって平和を守りましょう、お互いに協力し合って安全を確保しましょうと言って、平和を守ってきました。また、貿易はできるだけ自由にやりましょう、関税や障壁は取り除きましょう、と言ってきました。安全保障と自由貿易体制は、戦後 70 年間、世界の大きな柱だったのです。

#### BREXIT とトランプ大統領

ところが、先日、BREXIT といって、イギリスが EU から離脱すると宣言しました。第一次世界大戦と第二次世界大戦は、国民総動員の戦争となり、世界で何千万人もの死者を出しました。特に、何百年も前から、隣り合っているドイツとフランスは仲が悪く、第二次世界大戦後に、ドイツとフランスにもう二度と戦争をさせないように石炭鉄鋼同盟を作らせました。そして、EC、EU、さらに通貨同盟によってユーロができました。しかし、EU で一番力を持っているとされるイギリスが脱退すると言い出したのです。イギリスには、日本の企業が 1000 社以上進出していますので、大手の企業がいまとても困っています。予測可能性は地に落ちて、先行きは不透明で見えません。また、アメリカでは、トランプが大統領になりました。彼の主張は、前述した、戦後 70 年かけてやってきた総合安全保障体制や、自由貿易体制をひっくり返すようなことばかりです。人類が今まで培ってきた努力を根底からくつがえすようなことが本当に起きるのだろうかとみな危惧しています。平

和と安定と予測可能性、それは多国間で防衛協力、貿易協力をするという事です。それを「そんなものはいらない」という大統領が出現したわけですから、今後、企業の活躍の舞台はどうなるのでしょうか。まさに皆さんの関心事の異文化以前の問題が起きているのです。

### ユーロスケプティシズム

本日、皆さんにお話したかったのは、アメリカで極端な主張をする大統領が出てきたということと、イギリスが EU から脱退しようとしているということが、過去数十年間の、二度と戦争をしてはいけないという今まで続けてきた営みを壊しかねない事態であるということです。英語でスケプティシズム (skepticism : 懐疑主義) というものがありますが、それとユーロをくっつけると「ユーロスケプティシズム」になります。EU のような欧州統合に批判的な考え方のことを欧州懐疑主義といいます。第一次世界大戦後にグーテンホーフ=カレルギーというオーストリアの貴族が、ヨーロッパを一つにしようという訴えを起こしました。この考えは、第二次世界大戦が起こって潰れてしまったのですが、その後いろんな人たちが EC を、そして EU を作りました。そこに亀裂が入るといのは、どういことなのでしょう。今回のイギリスもひどい亀裂を作りましたが、問題はギリシャです。ギリシャはユーロの一件で、いま非常に苦しんでいます。一言でいえば、ドイツは蟻で、ギリシャはキリギリスなのです。ユーロは基本的に設計ミスです。EU で統一経済圏を作ろうとしましたが、本来は通貨と財政を統一しないといけません。今、ユーロ圏で統一されているのは通貨だけなのです。するとどういことが起こるのか。ドイツやオランダといった北ヨーロッパは生産性が高いのですが、地中海があってワインの美味しい南の方は生産性が低い。ドイツは生産性が高いので放っておいてもどんどんマルクの価値が上がります。ところがこれがユーロに切り替わると、本来の価値より半分ほど低い。すると、ドイツの製品が安くユーロで買えるようになり、ものすごく生産者のコストが高くなります。他方、ギリシャやイタリア、スペインといった地中海側の国々は生産性が低く、もとの通貨の価値も低いので、ユーロになると価値は倍ほど高くなります。すると、こんなにパワフルな通貨を持っていれば何でも買えるし、海外旅行にも行けると錯覚して、どんどん財政支出して、これら地中海側の国々は財政赤字になりました。その中でも、ギリシャの銀行が潰れると困るので、当初はドイツも資金援助したのですが、ギリシャが借金を返せないからなんとかしろといい続けて、さすがにメルケルさんも怒りました。去年 (2016年) の夏になんとか静かになったのですが、また騒がしくなっていて、今年 (2017年) また爆発するでしょう。ギリシャは、もう EU を外れようかと考えています。ギリシャが EU から離脱するとなると、2つの国がギリシャに入ってきます。それは、ロシアと中国です。

## ロシアと中国

ロシアではもともと冬に港は全部凍りつきますから、地中海に自分の軍港を持てるとなれば、これほどいいことはありません。シリアにあれだけ爆撃しているのは、地中海につながっているからです。すぐにでも手に入れたい。ヨーロッパ諸国が受けるロシアの脅威はすごいのです。中国は1年半前にすでにギリシャ最大の港を買っていました。中国は、「イーターイールー（一带一路）」とあって、中国からインド洋、アラビア海を経て地中海へ入ってくる2つの航路を作る。また、メルケルさんはギリシャにはきついことを言っていました。人道主義が非常に強い方で、中東からの難民を受け入れると言いました。1国だけではできませんので、ヨーロッパには30カ国もありますから、みんなで受け入れましょうと言ったら、みんなが反対したのです。ドイツ国内でも、「メルケルはけしからん」という人が出てきました。というわけで、EUはあちこちでひび割れしているのです。これが崩れるとどういうことが起こるのか。イギリスがEUから出るといっただけであの体たらくですから、戦後70年で作ってきた世界のシステムはどうなってしまうのでしょうか。そういうことが、今起きているのです。

## プーチン大統領

ロシアは世界最大の天然ガスの産出国ですので、ヨーロッパの半分以上はロシアの天然ガスで息を繋いでいます。それを締めるといわれると、みんな凍死してしまいます。ということがありますので、ロシアは怖い。シリアというのは、ロシアの南に位置していて地中海につながる一番重要なところなので、ロシアにとって絶対に確保したいのです。そのためには、ロシアはアサドを支えたい。かつて、ロシアはロマノフ王朝でした。アメリカが冷戦で全面的に対決してやっとなという強国だったのです。そのような栄光の国が、経済破綻して連邦解体しました。その時にプーチンさんが登場したわけです。そこから向上して、今は相当ロシアの経済もよくなりました。プーチンが、クリミアを併合しましたが、これにはさすがの欧米も驚きました。1928年に世界不戦条約が、パリで結ばれています。これは、世界史上非常に重要な条約です。昔は帝国主義でした。日本も帝国主義でした。1928年に、これはもうやめようということで、60カ国が調印しました。日本も調印しています。要するに、その条約では、『戦争は国の国権ではない』、『戦争は国家の犯罪である』と決められているのです。では、どんな戦争ならしてもいいのか。それは、自衛の戦争だけです。でも、同盟関係を結んでいる国がやられている時に助けるのはどうなのかということが議論されています。力で現状変更というのは戦争そのものなのでダメだということです。そう言われている中で、プーチンは平然とそれをやったのです。これが一昔前なら、ロシアは総攻撃を受けるのですが、戦争はやらないということになっているので、経済制裁がされ

ています。トランプは、それを尊敬しているようです。アメリカと対等に商売ができるのなら、クリミア侵攻を認めるといっているのです。これは、問題ですよ。プーチンは喜んでいでしょう。このように説明すると、プーチンが悪者みたいに聞こえますよね。でも、プーチンの立場からはどう見えるのでしょうか。それを皆さんと考えてみたいのです。

プーチンは幼い時に第二次世界大戦が終わりました。レニングラードで母親が餓死しようになっているのを見て、彼は少年時代に頑張って KGB に入りました。ロシアでは、軍隊、特に諜報員であるスパイが一番尊敬されています。それから、モスクワの副市長になりました。その時にイエルツィンを支え、その後とうとう大統領になったのです。どうやってこの国に栄光を取り戻すかということに真剣に取り組んでいます。プーチンからしてみれば、かつてのソ連と同じ領土が欲しいのです。なぜそんなにたくさんの領土が欲しいのでしょうか。専門家に言わせると、強い被害者意識があるそうです。我々からすると、非常に強引な拡張をしているように見えます。しかし、彼はそうではなく、放っておいたらやられると思っているのです。ロシアは平らな土地なので、山脈に遮られることもなくすぐに入られてしまいます。だから、広大な防波堤が欲しい。ですから、ウズベキスタンやアゼルバイジャン、カザフスタン、トルメキスタンなどの周りの国をみんな取り込んでいるのです。我々からするとちょっと遠くにみえるので、わかりにくいのです。

## 中東の混乱

中東は何が何だかわからないくらいに混乱しています。表面的にわかることは、シリアとイラクがもう国家として成立していないということです。イラクはスンニ派です。今は、イランとサウジアラビアが対立しています。サウジアラビアは、スンニ派の拠点です。イランはシーア派の拠点です。スンニ派とシーア派は、もともとモハメッドが起こしたイスラム教の一派で、4兄弟の一人が分かれてシーア派になったのです。ちょうど 100 年前の 1916 年にサイクス・ピコ協定が結ばれました。イギリスのサイクスさんとフランスのピコさんの原案でした。第一次世界大戦後にオスマントルコ帝国は粉々になって、ヨーロッパの連合国側の国々が領地を分け合いました。その線を引いたのが、サイクスさんです。そこへロシアで革命が起こって、イギリスが見ている間に現地の人々が自分たちの領地を決めている。領地といえば、だいたい宗教・宗派か、部族か地域かで決めるので、100 くらいに別れてしまった。ローザンヌ協定といいますが、このままでは使えないということになりました。するとトルコが「自分たちがオスマントルコの正統である」ということで、相当な軍事力を割いてもう少し大掛かりな線を引きました。それが、今の地図なのです。その線をまた引きなおした人がいるのです。それが、アメリカ軍です。今から 15 年くらい前ですが、クウェートにサダム・フセインが侵入した時に中東戦争が起こって、イラクに攻め入りました。結局、アメリカが全てを壊したのです。100 年間なんとなく続いてきた

ガラス細工を、叩き割ったのです。それをやったのは、アメリカの共和党です。民主党のオバマさんが「引こう」といって誰もコントロールしないから、力づくでやりました。そうすると必ず戦争が起きます。

## 中国のジレンマ

中国の経済成長はどんどん下がってきておりますが、別に驚くことではありません。中国が先進国になってきたということです。先進国といっても、人口だけです。高齢化が進んでどんどん人口の成長率が減ってきています。日本は10年前からいわれておりますが、中国もそろそろですね。人口が減ると、経済が成長しません。ただ、同時に中国は今、一人当たり8,000ドルの国民所得があります。日本は4万ドルですね。8,000ドルを超えると、中進国のちょっと下くらいですから、2万ドルくらいまでには持って行きたいところです。シンガポールは、一人当たり6万ドルです。そうするためには、これまでのように低賃金の労働者を大量に働かせるだけでは通用しません。中国独自の技術革新で生産性を上げないと、先進国にはなれない。それを「中進国のジレンマ」といいますが、それと「成熟化のジレンマ」の2つが同時にかかっていますので、中国は大変なのです。あと10年もするとアメリカを抜くという説と、アメリカを抜くことはできないという説があります。しかし、常にアメリカに肉薄する状態ではあります。

## 安全保障と世界経済

こういった状況の中で日本は船を漕がないといけないのです。トランプ大統領は日本が防衛の負担を負っていないのはけしからんと言ったり、TPPは無しだと言ったりしています。前述したように、日米安保は世界では最も緊密な安全保障関係です。一番しっかりしています。これこそが、戦後70年間の世界の平和維持システム、秩序の一番シンプルな形といえるでしょう。ところが、金を出さないなら軍隊を引き上げるというのは、そんなものはいらぬといっているのと同じことです。これは大変なことです。TPPというのは、我々がずっとGATTだWTOだと北米自由貿易協定だ、南米自由貿易協定だと広めてきた中で、最も先進的な形だったのです。これができたら、世界は次の時代へ入ると思われていたのに、勝手に「俺はやらない」といいました。トランプ大統領は根幹を崩すようなことを言っているのです、もしそれがずっと続いていくとどうなるのでしょうか。現代の製造業はどのような仕組みかというところ、トヨタ自動車はアメリカだけでなく世界中に工場を持っていて、世界全部を供給ネットワークで包んでいるのです。東日本大震災がありました。東北はすごい。世界の供給網の中でも密度の高い地域です。タイにも部品も作り、150万台もの車を作れる工場があります。一番安くて、効率も良くできるところを組み合わせ、グローバル企業というものは動いています。どこか一つを止めたからといって、トラ

ンプの思い通りにはなりません。逆に、あちこちの血管を止めれば、かなり萎縮してしまいます。すると、世界経済が縮みます。一番縮むのは、アメリカでしょう。トランプは自分に投票してくれた選挙民だけしか頭がないのです。わざと分からないのか、本当に分からないのか。日本は、平和と秩序と予測可能性と安定、しかもそれを日米安保の大きな枠の中でやってきています。日本はずっと安全保障の体系の枠の中で暮らしてきたので、それ以外の状況は考えられないのです。

### 世界史を学び直す必要性

我々は小学生の頃から、世界史というものを習ってきましたが、まず文明といえば世界史ではギリシャですよね。学校で教える世界史は、皆さんの場合はどうですか。その次はローマですよね。ローマの後には、暗黒の中世ですね。この暗黒の中世が長いのですが、ルネサンスがそれを変えるのです。そして、その後がイギリスの産業革命が起こって、世の中が変わっていきますね。それで、戦後になるとパクス・アメリカーナという、アメリカが全てを支配するというものです。なんのことはない、「アメリカさん万歳」の世界史なのです。中国のこともインドのことも、アフリカのことも全く出てきません。日本はそれを教えないのです。アメリカ万歳です。ヨーロッパのことすらまともに教えません。何をやっているのでしょうか。学校が世界史を教えないのです。人類の文明史は3000年というふうに仮に考えると、一番世界の文明を引っ張ったのはアラブ人なのです。それがどこかという、千夜一夜物語のバクダッドです。バクダッドは今イラクですが、イスラム帝国という大帝国があって、スペインからモンゴルまで、ローマ帝国よりもはるかに2倍半も大きかったのです。イスラム法のシャリーアというものがありますが、割と包容力が大きいのです。そこで何が行われたのかという、我々は今数字を使いますよね。ローマ数字というのは、マッチ棒のようなものを使いますが、あれはイスラム帝国が作ったものなのです。それから、天文学もそうです。航海術もそうです。インド洋とアラビア海と地中海を支配していたのも、イスラム帝国です。1000年続きました。ですから、安保体制なのです。教育も政治も政府も産業も社会も、全部安保体制なのです。トランプがそこへ穴を開けようとしています。

### そして日本は？

それでは、日本はどうしたら良いのか。自分の足で立って、自分の足でどうやって安全保障を確保するのか。日本経済をどうやって担保するのか。ここで皆さんに頭の体操をしていただきたいのです。実は現状維持が一番いいのです。現状維持が「プラン A」とします。「プラン B」は、トランプが選挙戦でいろいろなことを言っていましたが、大統領は力がありますから、世の中が変わります。当然、日本のあり方も変わります。皆さんは自主

防衛をどうしたらよいと思いますか。何十年も前に、中曽根さんがそれをやらせて、アメリカに依存しないで自分たちで国を作るために自主防衛力を身に付けたい、その研究をさせたいと言ったのです。日本列島は細いですよね。当時はすでに原爆もミサイルもできていて、アメリカも大陸弾道弾も何千発も持っていて、そういった時代に自主防衛はどういうことになるのか。今は北朝鮮も中国もたくさん持っていますから、その時にどう動くのか。中国とかアメリカとかロシアくらいに国土が広ければ、大陸間弾道ミサイルを打たれても一度にすべてはなくならないからまだいいのです。日本は、NHKを潰したら何も見えなくなります。災害放送も消えてしまいます。3ヶ所くらいで、日本は全くわからなくなってしまいます。それを守るためにどうしたらよいか。化学兵器を中国もロシアも持っています。日本列島周辺が今、世界で最も危険な地域とされています。だったらどうするのか。当然、日本は核武装する。それを「プラン B」とします。「プラン A」は現状維持。「プラン B」はいよいよ自分で立つということです。中国との付き合い方ですが、アメリカと同盟ですから、中国に何を言われても我々は耳を貸してきませんでした。あの超大国です。それでいいのでしょうか。私は、5～6年前から、それはまずいと思っています。70歳を過ぎて中国語を勉強して、今でも毎朝のように一時間朗読しています。この間、二時間半のセミナーで、最初の35分間を中国語で講演しました。このようにもっと努力して、相手を知らなければなりません。そして我々日本人は、このような激動の世界にあって、もっともっと強くならなければならないと痛切に感じます。

(2017年2月25日 異文化経営学会研究大会にて)